



矢川 だより

特集

滝乃川学園の文化財
石井亮一・筆子記念館



No.134

2024.08.Summer



矢川 の ひと



くにたち郷土文化館 学芸員

竹内竜巳 (たけうち・たつみ) さん

2016年に滝乃川学園の東側にある国立市の施設「くにたち郷土文化館」に入職。同館の学芸員として施設運営に従事する他、国立市の郷土の研究、「紙の工芸展」や「くにたち自然クラブ」、季節の行事などの企画や、教育活動を行っている。

滝乃川学園は

133年前に創立しました

その歴史は価値あるものとして
さまざまな資料や文化財となり
大切に受け継がれています

私たちが今、住んでいるまち

はたらいっているまち

生まれ育ったまちには、全て

人の営みの歴史があります

少し触れてみることで

日常がちよっとだけ

豊かに感じられるかもしれません



郷土の文化を知り 未来につないでいくために

「くにたち郷土文化館」は、1994年に開館して今年で30年になります。常設展示では「過去・現在 未来を結ぶ、多摩川が育んだ段丘(ハケ)」をテーマに、国立地域の地形や歴史、民俗を資料とともに紹介しています。また、地域で活動するサークルなどの拠点にもなっており、会議をしたり、陶芸やものづくりの教室を開いたり、講堂で音楽練習をすることもできます。市民とともにある場所です。

2007年に、「滝乃川学園 石井亮一・筆子夫妻の軌跡」というテーマで企画展を開催し滝乃川学園創始者の歩みや、学園の所蔵資料を紹介しました。学園には大切に保管されてきた資料や、昭和初期を代表する建物の「石井亮一・筆子記念館」(国登録有形文化財)があり、豊かな自然や矢川の流に恵まれているなど、郷土文化的にも貴重な資料や地域環境が多いと感じています。

滝乃川学園が巣鴨から国立(当時の谷保村)に移転して100年が経とうとしている今、学園の歴史をもう一度みんなで学ぶ機会が持てると思います。国立の歴史、文化、自然が未来へと続いていくように、郷土文化館では「伝える」ためのお手伝いをしていきたいですね。



講堂を使用した新人研修の様子



講堂

2階



展示室



記念館入口

1階



竣工当時の石井亮一・筆子記念館

特集

滝乃川学園の文化財 石井亮一・筆子 記念館

今号の特集ページでは、滝乃川学園本館として国登録有形文化財に指定されている、『石井亮一・筆子記念館』を紹介していきます。

『石井亮一・筆子記念館』は、1928（昭和3）年に竣工された昭和初期を代表する教育建造物です。同年、創立の地である滝野川（現在の北区滝野川）から巣鴨へ移転し、現在の矢川への移転を機に建てられました。

当時は知的障害児者のための教

育の場として使用されていました。そのため、建物の内部は知的障害児者の生活への配慮が随所に感じられる造りとなっています。国登録有形文化財に登録された障害児者向けの施設としては、一番長い歴史を持つ建物でもあります。

木造のモダンな近代建築で、整然と配置された窓、アーチ付きの玄関ポーチを中心に広がる水平線を強調したデザインにより、軽やかな印象を与えています。また、講堂上部のドーマー（屋根の上に突き出た小さな屋根付き窓）と赤い屋根がポイントとなって、全体を引き締めています。

建築当時、1階には教室（学園利用者用、付属保母養成所用）、2階には講堂等を備えていました。2007（平成19）年、支援者による応援や寄附のもと保存修復工事に着手、2009（平成21）年に竣工し、現在、1階は滝乃川学園や石井亮一・筆子夫妻を紹介する展示室、2階は研修、映画祭、コンサート等の会場として活用されています。

滝乃川学園の文化財豆知識

石井亮一・筆子記念館

記念館の意外な豆知識を
紹介します!!



実は建物が
左右対称じゃない???

記念館を外から眺めると、アーチ付きの玄関ポーチを中心とした左右対称の建物に見えるかもしれません。しかし、よく見ると窓の配置に少し違和感を覚えるはず。これは、各教室の黒板を西側の壁に設置したことで、光で黒板が見えにくくならないように、黒板からなるべく離れた場所に窓を設置しているためです。

左側



右側



1階の窓をよくみると、右側は窓が1個分右にズレています!

教室が正方形???

通常の教室は、長方形となっていることが多いのですが、記念館1階の教室を見ると、正方形に近い形になっていることがわかります。これは、障害児者向けの学校として運営していた当時の滝乃川学園は児童の人数が少なく、1クラスが10人程度の規模であったためです。

教室での授業の様子



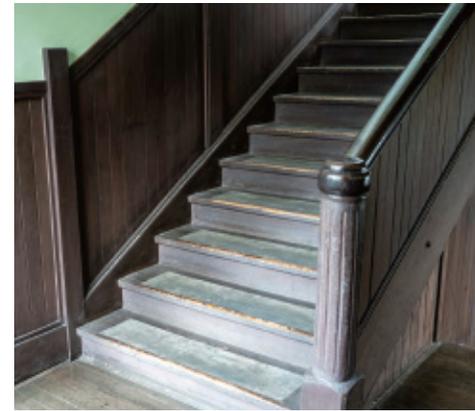
昭和30年代頃の様子



戦前の授業の様子

防災を意識したつくりになっている???

滝乃川学園が巣鴨にあった頃、園児の失火による火災で園舎が全焼した過去があります。その教訓は矢川へ移転する際に生かされており、災害時の避難を想定し、玄関に向けて幅が広くなっている廊下や、段が低くゴム張りの工夫がされている階段など、児童が逃げ遅れない為の工夫が随所に見られます。



講堂が1階ではなく
2階にあるのはなぜ???

大人数が入る広い講堂は、人の荷重が大きくなるので通常は1階に設けられます。けれども、講堂は入学式や学芸会、クリスマスなど特別な日のみに使用が限定されるので、普段使いの教室を1階に置くことになりました。

この講堂は当時は珍しい柱のない広い空間が確保されているなど、設計者の努力や工夫が随所に見られます。



窓にさまざまな工夫が見える???

滝乃川学園が矢川に移転した当時は、照明が充分にありませんでした。そのため、日中の光をできるだけ室内に取り入れられるよう、建物には高く大きな窓が設置されています。窓の上部は開閉できるようになっており、空気の入れ替えや排煙ができ、当時から室内環境への配慮がなされていたことがわかります。



子どもたちの日々の支えになる 滝乃川学園ではたらく

インタビュー
by
国立人

○職員

児童部 若葉寮
[勤続年数：3年]



I職員

児童部 常夏寮
[勤続年数：3年]

知的障害のある子どもたちの日常生活の支援を行っている児童部の同期お二人にお話を伺いました。日々成長し続ける子どもたちをサポートすることの大変さや、やりがいなどを伺う中で、生活支援の奥深さを知ることができました。

滝乃川学園で日々生活をしている子どもたちを支え、地域で暮らしていただけるように自立のサポートもする「児童部」。新卒で滝乃川学園に入り勤続3年になるお二人に、日々過ごす中で感じていることなど、お話を伺いました。

「社会福祉学を学んでいる時に滝乃川学園の名前を知りました。他の施設の放課後等デイサービスなどでアルバイトをしていましたが、学んでいくうちに障害児童分野で働きたいと思うようになり、歴史のある滝乃川学園に就職することに決めました。歴史のある場所で働けることは自分にとってもいいキャリアになっていると思います」（I職員）

「学生の頃に、保育士の資格を取得するために滝乃川学園児童部若葉寮で実習をしまし



た。滝乃川学園はスタッフ同士の雰囲気もよく、お互いに困った時に助け合いができる環境であるところがいいと思います、就職を決めました」（O職員）

児童部は、入所している子どもたちの生活の場なので、日常生活のサポートをしています。日々のサポートも大切ですが、子どもたちの自立を支えることも、今後地域で生活を送っていく子どもたちにとってはとても大切なこと。学園内の自動販売機で一人でジュースを購入できるように、陰で見守ることもあります。

「子どもたちは良くも悪くも純粋な表現をします。ずっと笑顔の絶えない環境でもありますが、時には人に対する事なので感情的になってしまいうような時もあります。子どもたちと関わることで自分自身の成長に繋がっていると日々感じています」（I職員）

「滝乃川学園の児童部は、他の施設と比べてもかなり子どもたちと外に出かけることが多いと思います。休日はお散歩やドライブに出かけたり、長期休みは旅行に出かけてコーディネートで宿泊の体験をすることもあります。子どもたちをサポートする身として、自分が子どもたちと一緒に過ごす

時間を楽しむことで、子どもたちがより楽しい気持ちになると思っています。スタッフ同士が助け合い、子どもに寄り添って過ごせる環境だからこそ、私自身も心から子どもたちと一緒に楽しむことができています」（O職員）

日々の生活に寄り添いながら、子どもの成長を見届けている児童部の職員たち。一緒に色々な経験をすることで、子どもたちの初めての場面に立ち会えることが、何よりも嬉しいそうです。

私たちと一緒に働きませんか！

支援員・理学療法士 募集中

詳しくは滝乃川学園のホームページの「採用サイト」をご覧ください。見学等、随時受け付けています。

問い合わせ
法人本部運営管理部人事科
TEL | 042-573-3950

利用者さんの まちめぐり

滝乃川学園 成人部の利用者さんの
散歩コースを紹介します



矢川のまちめぐり
今回のテーマ

利用者さんの
散歩コース

いきます!



滝乃川学園で日中に活動して過ごす利用者さんにとって、散歩は楽しい活動メニューの1つです。今回の「矢川まちめぐり」では、学園のおすすめの散歩コースを一緒に辿りながら、日中活動中の利用者さんが散歩の中で足を止めて興味を持っていたものも一緒に紹介していきます。

創業者記念事業を開催しました!

創業者石井亮一の逝去日である6月14日を「創業者記念日」と位置付け、毎年6月に「創業者記念事業」を開催しております。今年は令和6年6月8日に創業者記念礼拝、功労者等表彰、永年勤続者表彰、会食会を開催しました。多くの方々にご参列いただき、功労者の皆様に理事長より表彰状・記念品をお渡しさせていただきました。永年勤続者表彰は、勤続5年から40年までの職員49名が表彰されました。礼拝終了後には、礼拝堂前の滝乃川ガーデンに遊びに来ていたミニチュアホース2頭とご参加された方々が触れ合ったり写真を撮ったりと、非日常的な時間を体験していただく一面もありました。

礼拝後の会食会では、釜めしを皆様にお楽しみいただきました。ボリュームがあり、だし茶漬

けを楽しむこともでき、ご参加いただいた方からは「とても美味しかった」とのお声をいただきました。普段お話しする機会がなく、初めて来園された方もいらっしゃいましたが、お話しが盛り上がり楽しい時間をお過ごしいただきました。

午後には石井亮一・筆子記念館にて映画上映会を開催しました。前号でご紹介させていただいた滝乃川学園もロケ地となっている「わたしのかあさん」を上映しました。鑑賞された皆様からは、「滝乃川ガーデンが出てましたね!」と嬉しそうにお話ししてくださったり、お子様のいらっしゃる方からは「自身も娘であり、母である立場からジーンとくるものがありました」とのお声も聴けました。多くの方を迎え、賑やかな滝乃川学園の1日となりました。



創業者記念
礼拝の様子



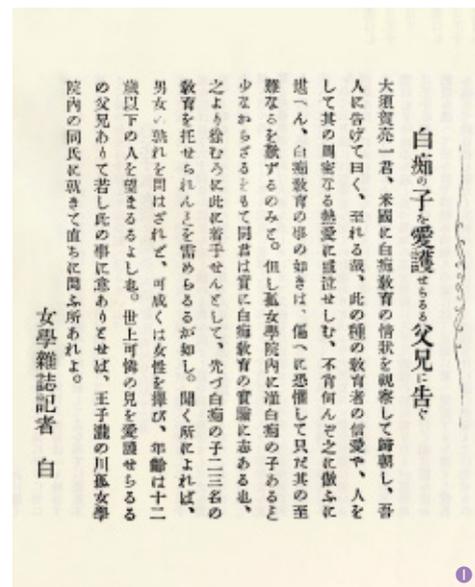
遊びに来ていたミニチュアホース



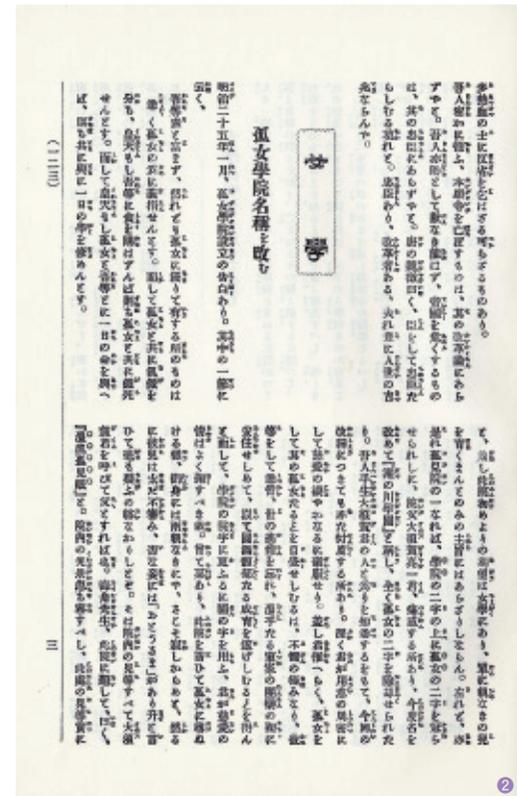
表彰式の様子

このコラムは滝乃川学園の深い歴史に魅せられ、2009年に記念館館長になった米川さんの歴史をさかのぼるコラムである。

亮一がアメリカより帰国し知的障害児教育を始める事を伝え、知的障害児を養育している家族に亮一を訪ねる事を勧めている。



①『女子学雑誌』第433号1897(明治30)年1月10日発行の記事



②『女子学雑誌』第436号 同年2月25日発行の記事

孤女学院を「滝乃川学園」に名称を改めること、学院を学園にすること、勝海舟が学園を題して『温風孤児眠』と詠んだこと等が記されている。

その8 亮一の歩み 2

亮一は、知的障害児教育を学ぶために当時の先進国であるアメリカに渡った。1896(明治29)年4月18日に横浜港より出帆し、30日にサンフランシスコに着いている。あまり体の強くない亮一は慣れない船旅や、広いアメリカでの移動などで苦労したようである。

上陸後は、ミネソタ、ニューヨーク、マサチューセッツ、ペンシルベニア、ニュージャージー、バージニア各州の知的障害児関係の学校・施設を精力的に訪問し、実際の教育を学んだ。また、ハーバード大学図書館、ポストン公立図書館に通い、日本では手に入らない専門的な書物を借り出しては、必要な箇所を書き写した(コピー機の無かった時代は書き写すしかなかった。後に亮一はこの時の苦勞を思い「後に続く者にこのような苦勞をさせたくない」と、様々な専門書を輸入し学園に整備した)。

アメリカでの特筆すべきこととして、ヘレ

ン・ケラーとの会談が挙げられる。ケラーは当時16歳で、ラドクリフ女子大学への進学準備のため、サリバン先生とともにケンブリッジ女学院で学んでいた。どのような経緯があったかは不明だが、亮一はケンブリッジ滞在中にケラーを訪問し会談した。ケラーは亮一の前でハムレットの一説を朗読して驚かせた。また、ケラーは既に亮一の孤女学院を知っており、孤女への同情を示したとのことである。亮一は、帰国後ケラーについてたびたび言及している。主なものとして、亮一が書き残した「教育学」(『石井亮一全集第三巻』に収録)の中の「ヘレン・ケラーに就て」で、女史は「心が清く、楽道家であり理想家」であると。また、サリバン先生の「才能、忍耐、努力は実に驚嘆に値する」と述べている。

同年12月22日に多大な成果を手に帰国した亮一は、孤女学院を知的障害児教育施設「滝乃川学園」に改め、組織も知的障害児の学ぶ「特殊教育部」と、孤女が学ぶ「保母養成部」を新設し新たな歩みを始めた。

矢川あたりの 鳥たち 虫たち

滝乃川学園のご近所、「国立あおいとり保育園」の園長・佐伯元行さんは、幼い頃から生き物博士！ そんな佐伯園長に、滝乃川学園界隈でその季節に見られる鳥や虫を教えてください。



その8
オニヤンマ

小川で産卵するメス



草に止まって休息中のメス



小川の上を往復して
パトロールするオス



産卵のために
ホバリングするメス

写真・文：佐伯元行

オニヤンマは、日本最大のトンボで、池ではなく水のきれいな小川周辺に棲息しており、国立市では学園内を流れる矢川や城山公園の小さな流れでよく見られます。夏に現れ、特に8月の旧盆前後に見かけることが多い印象です。肉食性で、空中でガやハエなど昆虫類を捕食します。木にぶら下がって止まります。

福祉施設の 児童発達支援管理責任者 って何？

お話を聞いた人

児童部 常夏奈 Y職員
(勤務年数12年)

Q. 児童発達支援管理責任者になるために必要

なこと、なろうと思ったきっかけは？

児童発達支援管理責任者になるには、一定期間の経験、国が定めた研修を受講すること、OJTによる実務経験など、要件を満たす必要があります。取得してからは、5年ごとの更新研修の受講が必要です。

私がこの資格を取得したきっかけは、新人の頃から個別支援計画に触れる機会があり、その後も滝乃川学園でのキャリアを積んでいく中で、様々な利用者さんとの関わりが増えていったからです。上司の勧めがあったことも、大きな後押しになりました。

Q. 仕事でやりがいを感じた瞬間

個別支援計画は、その子自身とご家族の将来への希望を尊重し、能力を最大限に活かすことができるように作成しています。

一番嬉しさを感じる瞬間は、児童部の子どもたちと日々を一緒に過ごしている中で、少しずつできることが増え、その子の成長を感じた時です。その喜びを本人やご家族と分かち合えた時に、この仕事をやってよかったなと感じます。

Q. 児童発達支援管理責任者は、

どんな仕事をしていますか？

子どもたちが寮生活を送っている児童部で、児童発達支援管理責任者は子ども一人一人に寄り添った個別支援計画の作成をしたり、日常の支援の中心となり、職員の支援に対する助言等を行います。個別支援計画は、子ども本人やそのご家族の意向や意欲を聞き取り、今のご本人の状態を把握した上で短期目標や長期目標を立て、そこに向けての具体的な支援計画や期間、職員が行う支援の方針などを記載し、希望する生活が叶えられるように作成します。

ほかにも、日常の生活支援に合わせて様々な業務を行っており、例えば子どもの進学や就労などの進路移行の際は、関係機関との連絡窓口にもなります。

ボランティア募集!

滝乃川学園では、日中活動支援、余暇活動支援、園内環境整備（除草・落ち葉掃きなど学園内の清掃・整備）などのボランティア活動をしてくださるボランティアの方を募集しています。イベントボランティアは、随時ホームページにて情報を掲載していきます。ぜひお気軽にお問い合わせください。

ボランティア担当

【電話】042-573-3950（9時～17時）

滝乃川学園ガーデンプロジェクト

園内にある500坪ほどの敷地にコミュニティガーデンを作り、内外の人がみんなで協力して、維持管理をしながら、誰もが憩うことができる場所を目指して活動しています。まずは気軽にガーデンの見学にいらしてください。お待ちしております!

【日時】「滝乃川学園ガーデンプロジェクト」のフェイスブック（公式ページ）で最新の日程をお知らせしていますので、ご確認ください。

【場所】聖三礼拝堂前コミュニティガーデン

【服装】汚れてもよい服装、靴

ガーデンプロジェクト担当

【電話】042-573-3950（9時～17時）

第3回 滝乃川学園ものの市 開催します!



昨年開催時の様子

ものの市は、地域の団体と滝乃川学園が主催となって、子どもも大人も、障害があってもなくても、お店の店員さんもアーティストさんも、それぞれの立ち位置からみんなが参加し楽しむイベントです。ものの市で楽しい時間を通して、違いのある人たちがお互いを理解し合い共感してもらえたらと思っています。今年は、イベントの数やキッチンカーも増え更にグレードアップしています。皆様のご参加を楽しみにしています。

【開催日時】2024年10月26日(土)
10:00～16:00 ※小雨決行 荒天中止
詳しくは、ホームページをご覧ください。



Instagram 始めました!

滝乃川学園の日々の様子をゆる～く発信しています。お気軽にのぞいてみてください!



@takinogawagakuen

矢川だより読者の 皆様の声を募集しています!

「こんなページが面白かった!」「こんなコーナーを読んでみたい!」など、矢川だよりを読んで感じた皆様の感想をお聞かせください!



◀こちらのQRから
感想を聞かせてください!

[https://forms.gle/
rwmos3rvzDCdojhV8](https://forms.gle/rwmos3rvzDCdojhV8)

ご支援のお願い

日頃より私たち滝乃川学園に温かいお心をお寄せいただき、深く感謝申し上げます。私たち滝乃川学園は、障害のある人々がみずからの幸せを希求できる場を創造、提供し、それを支援する有為な人材を育て、学園の発展のみならず、わが国の障害者福祉のさらなる進歩に貢献できるよう、役職員一同、先駆者としての誇りを胸に、努力していく所存です。引き続き、皆様のご指導とあたたかいご支援を宜しくお願い申し上げます。

ゆうちょ銀行

専用の払込票がございます。必要な方は、お電話またはメールにてお問い合わせください。

三井住友銀行

銀行名 : 三井住友銀行国立支店
口座番号: 普通預金 0921148
口座名義: 社会福祉法人滝乃川学園 理事長 石井慈典

三菱UFJ銀行

銀行名 : 三菱UFJ銀行府中支店
口座番号: 普通預金 0002309
口座名義: 社会福祉法人滝乃川学園 理事長 石井慈典

130周年記念寄附について

重度の方でもいきいきと活動できる場所を目指し、「新作業棟建設プロジェクト」を企画準備中です。現在、インターネット寄附の導入も検討しております。引き続きのご支援をお願い申し上げます。

感謝録 寄附者 ご紹介

ホームページにて、2024年3月1日から2024年6月30日までに寄附いただきました皆様をご紹介させていただきます。

矢川だより

No.134

矢川だより 第134号
2024年 8月発行

発行 社会福祉法人 滝乃川学園
制作 矢川だより編集会議
合同会社三画舎



〒186-0015
東京都国立市矢川三丁目16番地の1
電話 042-573-3950 (代表)
メール soumu@takinogawagakuen.jp
HP <https://www.takinogawagakuen.jp/>

